

盲腸に限局した一過性虚血性大腸炎の1例

なが み はる ひこ¹⁾ ます はら まさ あき いし だ しゅう こう²⁾
 長 見 晴 彦¹⁾ 増 原 昌 明²⁾ 石 田 周 幸²⁾
 くろこうち かず たか やま がた しん ご たか はし のぶ ゆき¹⁾
 黒河内 和 貴¹⁾ 山 形 真 吾¹⁾ 高 橋 伸 幸¹⁾
 たけ だ ふみ のり²⁾ いし ぼし ゆたか まる やま りる け⁴⁾
 武 田 文 徳²⁾ 石 橋 豊³⁾ 丸 山 理留敬⁴⁾

キーワード：盲腸，虚血性大腸炎，心房細動

要 旨

今回、盲腸腸間膜対側部に発生した一過性虚血性大腸炎の1症例を経験した。症例は87歳，男性：主訴は貧血であり，入院後第3病日に大腸内視鏡検査を施行したところ腸間膜対側の盲腸に不整形潰瘍を認め生検組織診断の結果は大腸粘膜の陰窩上皮は立ち枯れ状変化を示し，杯細胞の減少を認めたため虚血性腸炎と診断した。一般に虚血性大腸炎の好発部位は下行結腸～S状結腸であり，右側結腸例は非常に珍しい。本疾患の発症原因は血管側因子としては動脈硬化に伴う血管の狭小化・血栓・塞栓・血管炎・血管攣縮などが，腸管側因子としては便秘・下痢などの腸管蠕動亢進や細菌関与などが指摘されている。自験例では病変が腸間膜対側に分布しており，低血圧状態もなかったことから心房細動に伴う微小血栓による塞栓がその発症機序として考えられた。なお自験例は外科的切除を行わずに絶食下点滴治療にて軽快した。

はじめに

虚血性大腸炎の好発部位は下行結腸～S状結腸であり，右側結腸は非常に少ない¹⁾。その原因については諸説があるものの特定されない事が多い。今回，我々は動脈硬化，心房細動によって惹起さ

れた微小血栓症が関与したと考えられる盲腸虚血性大腸炎の1例を経験したので報告する。

症 例

症例：87歳 男性

主訴：貧血

既往歴：肺癌にて肺部分切除術

約4年前に肺癌の手術を受け，以後定期的にフォローされていたが，急激な貧血進行のため呼吸器内科から当科へ転科入院となった。

家族歴：特記すべきことなし

Haruhiko NAGAMI et al.

1) 島根大学医学部総合医療学講座大田総合医育成センター

2) 大田市立病院消化器内科

3) 島根大学医学部総合医療学講座

4) 島根大学医学部病理学講座

連絡先：〒693-8501 出雲市塩冶町89-1

島根大学医学部総合医療学講座